

# レガシー 国体・障スポの遺産を生かす



アスリート・ナイト・ゲームズ・イン・フクイ



全日本シニア体操競技選手権大会



ボクシングを体験



ポッチャ出前講座

県民が一丸となって成功へと導いた昨年の福井しあわせ元気国体・福井しあわせ元気大会（障スポ）。その遺産を生かし、県では、スポーツによる交流の拡大や競技力向上に取り組んでいます。

## スポーツを身近なものに

天皇杯（男女総合優勝）・皇后杯（女子総合優勝）を獲得した国体、過去最多となる130個のメダルを獲得した障スポ。輝かしい成績を収めるとともに、県は国体史上初めてとなる「国体と障スポの融合」を進めました。

国体会期中に車いすバスケットボールと車いすテニスの競技会を開催。大勢の皆さんが会場に足を運び、障がいのある人もない人も一緒にスポーツを楽しみ、観戦する場になりました。

こうした遺産を次世代へつなげていくよう、県ではスポーツを通じた交流の機会を拡大していきます。

## トップアスリートが福井に集結

8月17日には、9.98スタジアム（県営陸上競技場）で、国内のトップアスリートを招いた競技会「アスリート・ナイト・ゲームズ・イン・フクイ」が行われました。同スタジアムで男子100m走・日本人初の9秒台（9秒98）を記録した桐生祥秀選手や、福井国体に「チームふくい」として出場し大会新記録を樹立した、男子110mハードルの金井大旺選手らが登場。スタンドを埋めた大勢の観客の声援を受け、走り幅跳びなど4つの日本記録が生まれるなど会場は大いに沸き立ちました。

さらに8月30日には、県営体育館で東京2020オリンピック代表一次予選会

も兼ねた「全日本シニア体操競技選手権大会」が開催されました。国内トップクラスの選手が集結し、白熱した演技を繰り広げました。

今後も市町や競技団体などと協力し、積極的に全国規模のスポーツ大会・イベントの誘致を進めていきます。

## △様々なスポーツに親しもう

県では、小学生を対象にした障がい者スポーツの出前講座を新たに始めました。

東京2020パラリンピック正式競技の車いすバスケットボールやポッチャで活躍するアスリートの皆さんが小学校に出向いて競技を紹介。子どもたちは楽しみながら障がい者スポーツへの理解や関心を深めています。

また、年齢や性別、障がいの有無にかかわらず誰もがスポーツを楽しめるよう、手軽にできるスポーツの普及を進めていきます。

## さらに強くなれ 福井のアスリート

福井国体では、県内企業などの協力を得て、選手のUIターン就職を促進する制

度「スポジョブふくい」を設け、県内外の選手244名が就職しました。選手たちは国体後も県内で引き続き選手や指導者として活躍。本県の競技力を引き上げる大きな力となっています。

## △発掘！未来のアスリート

県では今年度から、小、中学生を対象にしたスポーツ能力測定会を行っています。ジャンプ力やバランス力などを測定し、長所や短所を分析。子どもたちは、自分の特徴や適したスポーツを知ることができま

す。また、ボクシングやフェンシングなど学校の授業で行われることが少ない競技の体験会を実施しています。

福井の子どもたちの興味と可能性を広げ、次世代を担う未来のアスリートを発掘・育成していきます。

◎スポーツ課  
☎0776・20・0747 FAX20・0664  
◎保健体育課  
☎0776・20・0540 FAX20・0672